



あぶ小だより

須賀川市立阿武隈小学校
第48号
令和3年3月22日
☎ 76-5135

3月23日をもって1年の課程を修了します

～ご理解・ご協力を感謝申し上げます～

令和2年度は、コロナ感染症対策のために様々な制約や変更を余儀なくされた年でした。学校も不安を抱えながらの教育活動だったと思い返しています。行事も実施するかやめるか、時期をずらすか、方法・内容を変えるかなど、そのたびごとに検討せざるを得ませんでした。近隣の情報が入ってくるたびに、本校では大丈夫だろうかという心配をいたしました。もしそうなったとしても臨機応変に、粛々と対応を行うつもりでいました。

心配だったのは、誹謗中傷、差別・いじめの発生でした。お陰様でそのようなことが起こらず、保護者も児童も職員も無事に生活できて幸いでした。ほっとしています。

さて、2年度の学習は授業日数の減少によって、例年の授業時数よりも若干減少していますが、子どもたちのがんばりと行事等の簡略化等を通して年間の学習内容を確保して修了いたしました。この1年で、全校児童の心も体もとても大きく成長しています。小学校、中学校における伸びはすごいものです。それだけにとっても大事な時期であることも確かです。

今年度は、「密を避ける」に代表される生活を経験することによって、人と人とのつながり、絆の大切さをコロナ禍を通して感じさせられました。以前のように人同士が寄り添い、助け合い、語り合える生活に戻れることを祈りたいし、学校生活においてもそういう学びの場を作れることを祈りたいと思います。未だ渦中ですが、今年度の皆様のご協力に対し感謝申し上げます。ありがとうございました。

70余名の協力で引越しを終える

14日(日)は、保護者の協力ボランティアを募り、引越しをいたしました。ご協力のおかげで何とか重い荷物を運び終えることができました。ありがとうございました。その翌日から、各学年学級の引越もしました。2年は南校舎、5年、6年となかよし学級、かがやき学級は新しくなった北校舎に移りました。6年生の皆さんが新しい教室に入れてよかったです。

表彰～おめでとうございます～

【ユネスコ平和作文コンクール】

優秀賞 5年 竹田 愛菜
6年 菊地 純輝

優良賞 6年 関根悠姫奈

【青少年赤十字詩100文字提案】

佳作

2年 渡辺 愛蓮
2年 正木 蒼士
5年 羽田 夢香
6年 緑川 衣真

【税に関する絵はがきコンクール】

努力賞

6年 森 心花

校内ばしょう賞 二月

特選 五年 吉田 大悟

下校中

阿武隈川に

かもの列

入賞 一年 まつもと ゆずか

ゆきのあさももうすぐくるよはるのかぜ

一年 かなざわ まつり

ストーブはへやにお日さまきたみたい

二年 名原 もも

えほうまきたべつづけてもおわらない

二年 さとう こうすけ

わたあめにみえるふるゆきすぐとけた

二年 まつばら むう

ゆきだるまみんなのえがおみまもるよ

三年 矢吹 りな

うめのはなもうすぐさくよひなまつり

三年 山田 羽音

ふきのとう雪をおし上げ顔を出す

四年 井上 真悠

帰り道強く弱くと雪の声

四年 小湊 心乃

せつぶんだ今年のテーマはコロナそと

四年 西間木 美来

校庭で春をまつてるさくらの木

五年 吉田 陽登

雪だるまつけてうつつたにじのはし

六年 秋山 亜子

日が暮れてさびしい顔した雪だるま

六年 関根 くるみ

薄氷朝日が映る冬景色

六年 熊田 みう

椿の花まだつぼみだながんばつて

今日は、みなさんに「修了証書」というものを渡しました。通知票の中に入っています。

毎年3学期の最後に校長先生から渡されるものです。卒業生は「卒業証書」ですが、みなさんは「修了証書」です。

一年間よく勉強しましたね、という校長先生からのプレゼントです。

今日は、修了式の日なので、こんなお話をしたいと思います。

皆さんは、新しい校長室の前にある銅像はだれか分かりますか。燃やす薪を背負って本を読んでいます。この人は、「二宮金次郎」と言います。金次郎が読んでいる本を調べてみると、こう書いてあります

「一家仁（じん）なれば、一国仁に興（おこ）り、一家讓（じょう）なれば、一国讓に興り、一人貪戾（たんれい）なれば、一国乱を作（な）す。」

金次郎はまだ子どもですがこんな難しい本を読んでいます。どういう意味かという

「一人ひとりが思いやりややさしい心を持てば、みんなその心になり、一人ひとりが正直で素直な気持ちを持てば、みんなその心となり、一人ひとり自分さえよければと考えると、間違っただけをすれば、みんなその心となって社会は乱れ、人々は争い始める」ということです。子どもころからこんな大事なことを勉強していたのですね。

二宮金次郎は、14歳の時にお父さんをなくし、16歳の時にお母さんをなくしました。叔父さんに面倒を見てもらいますが、夜本を読んでいると叔父さんに怒られました。ですから自分で菜種を売って油を買い、火をつけて読んでいると「お前は誰のおかげで飯を食っているのだ。油がもったいない。」と言われました。「お前の時間は俺の時間だ。百姓に学問はいらない」と言われました。しかし、金次郎は学問をやめませんでした。仕事を手伝っている間も本を読むことを続けました。その姿が校長室前にある銅像です。やがて、金次郎は、大成功を果たし立派な大人になりました。

金次郎が残した言葉に次のような言葉があります。

「小を積んで大を為す」

この言葉の意味は、立派な大人になるには小さなことでもこつこつとまじめに取り組み積み重ねることが大切だ。ということです。ウサギと亀のウサギのように甘い考えにならずに亀さんのようにゆっくりでも少しずつしっかりと積み重ねていくこと、これが大事だということなんです。阿武隈小学校の皆さんも今やらなければならないことを甘く見ずにコツコツと積み重ねていき、将来立派になってほしいと願っています。

1年間の勉強が終わりました。4月からは新しい出発です。頑張ってください。終わります。